

「インド哲学の五蘊を用いた行動分析により、支援内容の共有化を効果的にすすめる実践研究」

大分県発達障がい者支援センター 五十嵐 猛

※ 第2回 日本公認心理師学会学術集会 山口大会(2022年12月11日)にてポスター発表した内容です

INTRODUCTION

五蘊を用いた理由・・・

A事業所では、個々に応じた支援の計画・実施に向けて応用行動分析を活用していますが、利用児童のニーズを読み取る際に職員の知識や経験に差が生じて異なったり、施設長が新人職員や後輩職員に伝達している見立てを職員間で共有できないまま方法論が先行してしまうという課題がありました。そこで、仏陀が悟り(※)を得るために考案した「五蘊」を用いることで、利用者ニーズを職員間で共有しやすくなりやすくなることと、利用者との関係性も向上しやすくなるのではないだろうかと考え、独自のシートを開発して実践することにしました。

※悟り(五蘊盛空)＝五蘊を繰り返して行く中で最終的には苦から空(無我の境地)にたどり着く



五蘊について・・・

五蘊とは仏教用語として経典のなかでも頻りに使用されている言葉であり、仏教が考える「人間の構成要素の基本」となっています。もともとは仏陀が人間の物質的な部分と精神的な部分を科学的にとらえて5つに細分化させたアイデアである「インド哲学」をベースとしています。この五蘊を詳しく解説すると、人間は1つの肉体的要素と、4つの精神的要素の合わせて5つの要素で構成されており、その5つにはそれぞれ色・受・想・行・識という名称がつけられています。この「受・想・行・識」とは、もともとサンスクリット語(インドの言語)の言葉を中国で漢字に訳したものです。

五蘊(漢訳)	サンスクリット語	日本語	解説
色(しき)	ルーパ	物体	物体
受(じゆ)	ヴェダナー	感受	苦・楽などの印象や感覚
想(そう)	サムジャナ	表象	分別・想像
行(ぎょう)	サンスカラ	意志	行動
識(しき)	ヴィジュニャーナ	認識	結果・認識

五蘊とは仏教で人間存在を構成する要素をいう。また人間存在を把握する、色(しき)、受(じゆ)、想(そう)、行(ぎょう)、識(しき)の五つの方法をいう。色蘊は物質要素としての肉体。受蘊は感情、感覚などの感受作用。想蘊は表象、概念などの作用。行蘊は受・想・識以外の心作用の総称で、特に意思。識蘊は認識判断の作用または認識の主體的な心。また宇宙全体の構成要素ともされ、絶えず生滅変化するものなので、常住不変な実体はないとするのが、仏教の根本説教の一つ。

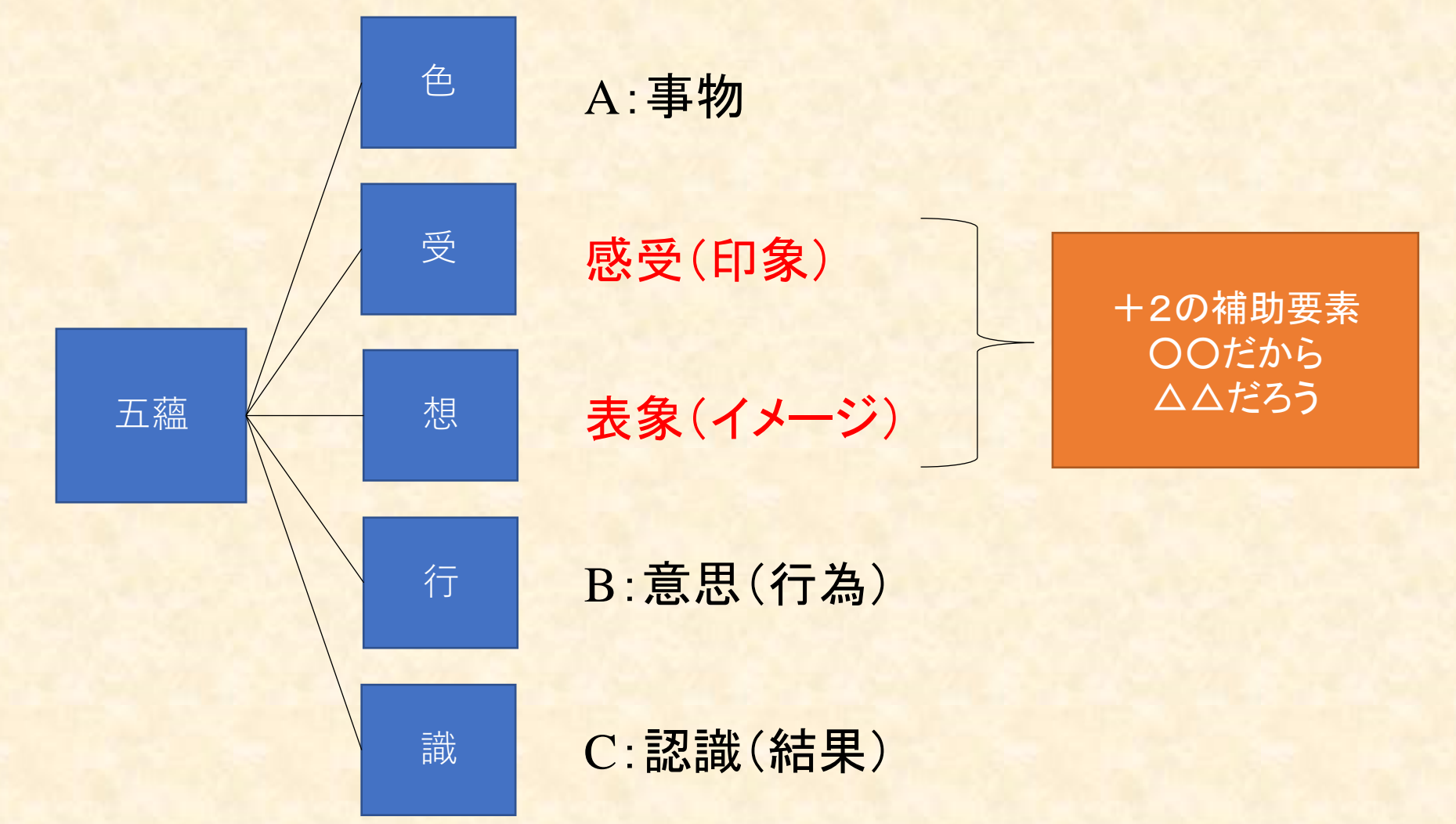
参照: 百科事典マイペディア

METHOD

実践方法・・・

- ①5月にA事業所の施設長1人(経験年数15年)と職員8名(経験年数0年～15年)に対して本研究の意図と応用行動分析や五蘊の説明を行う。
- ②各職員が通園を始めたばかりの児童や新たに担当した児童に継続的に関わり、行動で課題に感じることを6月～12月の間で4回に分けて五蘊の色・受・想・行・識に沿って分析シートに記入してもらう。
- ③記入した分析シートを基に施設長や職員間でスーパーバイズや意見交換を行い、児童のニーズを見直してもらう。
- ④新たに見直したニーズに基づいて配慮点や自分の支援内容を修正しながら考察を深めてもらう。
- ⑤12月に6月と比べて児童との関係性に変化があることを確認してもらう。

五蘊を通して利用者のニーズもアセスメントしてみる(ABC機能分析+2)



METHOD

5月の説明会・・・

研究目的として、以下の例示をもとに①利用者ニーズとの違いによって支援者側の配慮や支援内容が変化することを確認するとともに②そのニーズや支援内容を職員間で共有しやすくなることを伝えました。

例① 生物＝生理的欲求(お腹がすいた)

配慮・支援の内容
空腹時の外出や刺激になる物を避けられるように配慮する。

例② 心理＝同一性の保持(不安)

配慮・支援の内容
持ち帰れるものを予め用意して渡したり、違う形で手応えを得られるようなプログラムを提供する。

例③ 社会＝賞賛(見返りがほしい)

配慮・支援の内容
社会的、生産的な方法で欲しい物を入手したり、褒められたりできる方法を教える。

METHOD

五蘊分析シートの開発・・・

意見交換を行うために、本シートを使って利用児童のニーズと支援者側の意図を合計32例(8人×4回)記入してもらい、施設長のスーパーバイズを受けながら振り返りや支援内容の修正と共有化をすすめるようにしました。「受」と「想」を書き出す時に混乱するという意見から、「受」と「想」を1つの項目にまとめるようにシートの変更も行いました。

記入例

五蘊分析シート (short ver.)

2022年 8月 11日

対象者(児): A 記録者: B

支援課題: 他児の顔や顔をたたく

五蘊	本人の状況	支援の内容
色: (事象) Antecedent	朝の起床の時間	刺激から遠ざかれる部屋を確保するようにした
受: (印象) Feeling (イメージ) Imaging	音や他の友達の様子に対して、自分がどうふるまえば良いか整理できないから「うるさく」感じてイライラする。	「あいつが近づいてきて嫌だからたたいたんだ」と代弁したり、「音がうるさいのが嫌やなあ」と共感的に代弁したりする。
行: (行為) Behavior	近寄ってきた児童をたたく	近寄ってくる児童や体触の場面から遠ざかることを選択できるように指導する
識: (結果) Consequence	抑いても他児が近寄ってくるので、ますますエスカレートしてたたく	児童から遠ざかることや体触の場面から遠ざかることで安心したようで、行動が落ち着いていった

考察:
本人の不安や不快な気持ちを受けとめながら「うるさいのが嫌だね」と代弁し、その不安を回避する方法として「逃げる」ことを指導したり、予防できる環境として部屋を用意したりする事で、誘導した職員に対する信頼感が増したようである。その職員に対する軽はずみな暴言や暴力的な行為はなくなり、自分を振り返りしているような前向きな態度でコミュニケーションを投げかけてくる機会が増えていった。

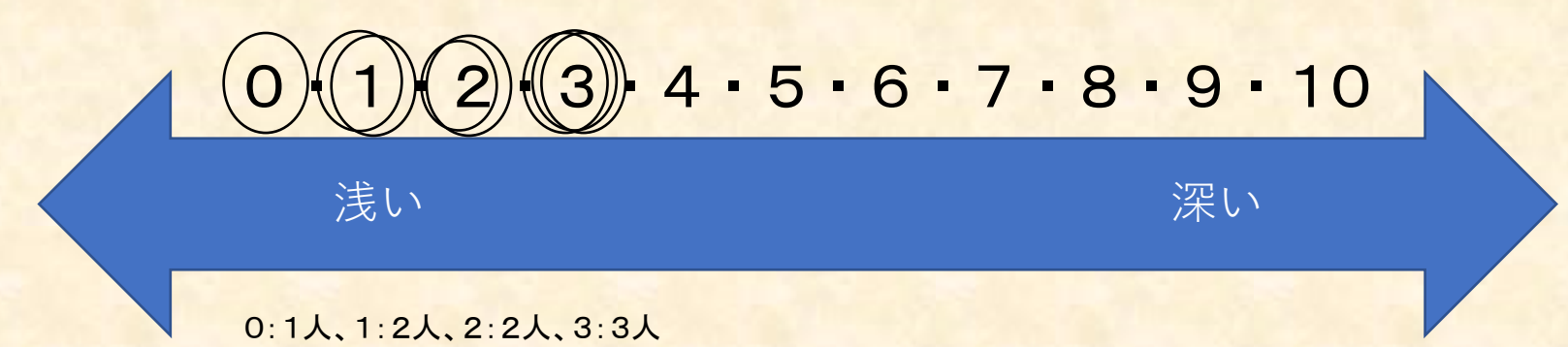
RESULT

五蘊シートで共有化した結果・・・

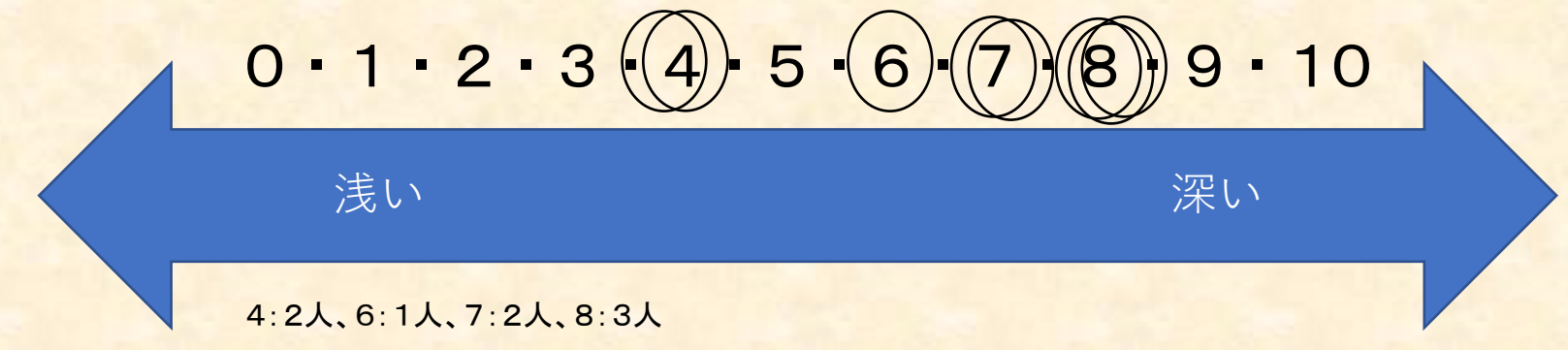
全職員に分析対象とする児童との関係性の育ちについて、以下のような表を使って支援を始めた6月と半年後の12月を自分で比較しながら数値と感想を記入してもらうようにしました。その結果、次の通り8人全員が利用者との関係性が3～6段階向上しているとの回答が集まりました(平均4.625段階)。

6月→12月 = ①1→6、②3→8、③2→7、④1→4
⑤3→7、⑥2→8、⑦0→4、⑧3→8

6月時点での対象児との関係性を数字で表すとどのくらいか○を付けてください



12月時点での対象児との関係性を数字で表すとどのくらいか○を付けてください



感想(例)
半年前は目を合わせにくい様子がみられており、本児の自傷や他害の対応に追われることが少なくなかったが、今では困った時にジェスチャーや言葉で支援者側にサインを投げかけてくれるようになり、支援をしやすくなっている。

感想と今後の課題

職員の感想(抜粋)

- ・最初は児童の目も合わず、誰にでも相手を求めていたが、今では自分を選んで関わりを求める事が多くなった。
- ・シートに記入する事で、今までよりも関わり方を意識したり、アプローチに対しての反応やその後の変化を意識したりする事が増え、他児との関わりでも意識が変わった。
- ・スーパーバイズのもとで、1回は本児の思いを代弁して受けとめる。じっくりと待つということをしつかりとやっていると、少しずつ児童が落ち着いていくのが分かった。
- ・周囲の状況であったり、相手の気持ちを説明したり伝えていく関わりを確認していくことで児童の言動に変化が見られ、シートに記入する内容も「自分中心」から「相手」に変化していったように思う。
- ・子どもの特性や持つイメージなど様々な背景を考えると、自分の考えと子どもの思いとの間にズレがあることや、もっとその子の気持ちに気付くことが重要であるように感じた。
- ・記録をとって他の職員と意見を出し合うことで、様々な対応の方法や色々な角度から子どもの気持ちを考える機会となり、もっと柔軟に考えて対応していかなければならないと気付くことがたくさんあった。
- ・一緒に課題を考えながら関わり、記録をつけることで、成長を感じる事ができた。
- ・次はこう関わってみようという支援の幅を広げていける気がした。
- ・シートの活用で自分の中で対象児の「印象」と「イメージ」が前向きで明るい方向へ変化してきつつあるのと同時に、対象児が支援者に抱く「印象」や「イメージ」も変化してきている手応えを感じた。
- ・シートを記入することで、本児の好きな物や楽しめる遊びといった気持ちを支援者側も探りやすくなり、関係性を築きやすくなった。

施設長(スーパーバイザー)の感想

- ・分析シートへの記入により、職員が見立てている利用者ニーズを把握しやすくなった。
- ・五蘊を通することで、利用者のニーズ把握に職員の意識を向けやすくなった。
- ・利用者ニーズを職員間で共有しやすくなったので、今後も続けていこうと思う。

今後の課題点

- ・半年という期間だけでなく、より長い期間の実践事例とも比較してみる。
- ・実践事例を増やすために成人期の支援も含めて母集団を増やす。
- ・個人の感想だけでなく、児童の発達も検査機器等を通して多角的にチェックする。
- ・自己評価と比較するために施設長(スーパーバイザー)にも関係性を評価してもらう。